



生徒の皆さんへのメッセージ(その8)

**人間としての基礎・基本を築く中学校時代を大切に
—この時期を逃さず学習方法に工夫を—**

校長 西田 隆夫

学習も部活動も佳境に入ってきました。不順な気候の変化にも負けず、学校生活をしっかり送れるようにしてください。自分を成長させていくことにどん欲になるのが中学校時代です。

□ 1年生諸君、“肩の力を抜いて、でも、目線はまっすぐに”

そろそろカバンの重みにも慣れ、通学路の手入れの行き届いた花園（前年度のPTA会長さんや現役員さんら有志の方がボランティアで手入れをいただいています）を楽しむ余裕も出てくる頃かもしれません。先生目を見て話や説明を聞いて授業が受けられるようになってきたら、次は、自分の手や頭をしっかり使って“出来るようになったこと、分かったこと”、を積み上げ「本物の中学生」になる努力をしてください。

□ 高校へ行っても伸びていくために、中学校時代の学習を工夫改善しよう

今、各学年とも懸命に学習に励んでいます。学年だよりや学級だよりに掲載された皆さんの学習への決意などは実にすばらしい。中学校時代の学習は高等学校へ、そして大学へとつながっていきます。高校でもぐいぐい伸びていくために、高校で後退しないために、中学校時代に学習上で大切にしてほしいこと、意識して取り組んでほしいことを書いていきますので参考にしてください。高校でも伸びていく秘訣です。まず、① 勉強に対してまじめであること ② 自分の頭でよく考える訓練を積んでおくこと、考える習慣付けをしておくこと ③ 自分で調べる方法を身に付けておくこと ④ 先生に質問できるようにしておくこと、この4点についてです。

まず、①については、誰も異論を挟む余地のないことなのですが、よく大人の人で、勉強などいつでも出来る、と述べる人がいます。確かに、学ぶことの尊さは大人になったからといって減じるというものではありませんし、今、日本の社会は、誰もが、いつでも、どこでも学べる生涯学習社会の構築に向けて努力している途上にあります。しかし、この中学校時代でないと出来ないこと、この時期にしか身に付かない感覚やものの見方というものがあります。記憶力も最も旺盛なときです。いくら詰め込んでも記憶容量が限界点に達することはありません。忘れる以上に覚えればいいのです。また、中学校や高等学校で学習する漢字や英単語などはこの時期に手に覚え込ませることが重要なのです。また、万葉集や古今集、新古今集などに収められた歌は日本語固有のリズムであり、それは日本人がものを考えるときのリズムでもあります。教科書で扱っているものについては、中学校時代に何回も口ずさんで覚え込んでおくことが必須となります。勉強に対してまじめであれというのは、この時期を逸することなく人間のあらゆる感覚器官を使って身に付けておかなければならないことがある、このことを深く胸に刻んで学習に取り組み、という意味なのです。

毎日コツコツまじめに勉学に励むことの大切さは、これまで先人たちが何度も説いてきたところ です。（・・・この稿続く）

□ “物語の筋を追う君たちの息遣いが聞こえてくる” 一朝の読書に深まりを感じています

皆さんの朝の読書の様子を見ていると物語などに没頭している姿がこちらに迫ってきて、圧倒される思いにとらわれるときがあります。皆さんの真剣なまなざしは、将来何事かを生み出すに違いないと、休火山の奥深くに潜んでいるマグマのようにも思えてきます。現実の日常生活とは異なった、別次元の物語の世界に自分の身を置くことができるのが読書の大きな特徴です。自分の中で、もう一つ世界が広がっていく、この楽しみは何者にも代え難いものです。私のように年齢を重ねているものでも、就寝前に、他者の心模様に分け入り、そこに我が身を浸すことができるのは人生の至高の楽しみとなっています。